

## 市立奈良病院での 特定ケア看護師の活動報告

市立奈良病院 村出亜矢

### はじめに

皆さん、初めまして。私は市立奈良病院で特定ケア看護師として勤務しています。

市立奈良病院は、歴史と文化を誇る奈良市の中核的医療機関として、質の高い効率的な医療を提供するとともに、地域の皆さんが安心して、笑顔があふれる病院を目指しています。そして当院では、JADECOM-NDC研修センターで「特定行為にかかる看護師研修」を修了した3名の特定ケア看護師が在籍しています。私は8期生として研修を受け、現在は診療支援室に在籍し自施設にて卒後研修中です。

### 特定ケア看護師を目指した動機

私は看護学校卒業後、整形外科・泌尿器科、ICU・CCUなどの急性期病棟で勤務をしてきました。特定ケア看護師の制度ができた時に、院内で特定ケア看護師について講演があり医師と

看護師との懸け橋となる存在だと説明がありました。それまでは患者の状態変化が起きた際に、医師に報告をしたくても手術中や外来中などで連絡がつかないことがあり、何もできず時間だけが経過するという経験を何度も繰り返していたため、この研修を受ければ少しでも患者の役に立てるのではないかと思ったことが始まりでした。実際、医師と連絡が取れなかった時に、特定ケア看護師に相談し、介入してもらい安心できたことがありました。私も治療方針を理解した上で医師と看護師の懸け橋となれるよう、患者の病態を把握し相談にのれる看護師になりたいと強く思うようになりました。

### 日常業務

2024年4月から2025年3月までの1年間は卒後研修として、各診療科をローテーションでまわっています。主な研修の内容は、指導医が担当している患者と一緒に受け持ち、入院時から



市立奈良病院外観



ICUでエコー研修中

身体診察や病歴聴取を実践しています。画像の見方、抗菌薬の選択、退院を見据えた治療方針の立案などアドバイスをもらいながら学習を継続しています。治療の効果判定の際も、指導医と振り返りを行い、副作用は出ていないか、この治療法でよかったのか、他の方法はなかったのか、見落としはないか、ディスカッションを行っています。また、指導医だけでなくチームの医師とも連携しながら、病棟の看護師をはじめ理学療法士・作業療法士・言語療法士・管理栄養士などのコメディカルとも協力し日々の情報収集を行っています。

## 活動の効果

特定ケア看護師として研修を行っていく中で、医師のみで行われているカンファレンスや勉強会に参加させていただく機会が多くありました。看護師としては見えていなかった医師が何を考え治療方針を決定し、薬剤を投与しているのかなど少しずつ理解ができるようになってきました。薬剤の投与についても、多数ある種類の中からどの薬剤を選ぶのか、副作用の出現率などを考え、患者に適切な治療が行えるように科内カンファレンスでも相談を繰り返しながら行っていました。薬剤の副作用については病

棟スタッフやコメディカルなどからも情報を収集しカンファレンスで発言することができるようになりました。

また、月1回卒後研修指導医に振り返りを行ってもらうことで、できたこと・できなかったことが明確となり次の課題を抽出することができました。課題に対して向き合う中で、一人の患者を診るためには多職種との連携が必要であることが実感できました。常に患者のそばにいる病棟看護師、理学療法士、作業療法士、言語療法士、管理栄養士、薬剤師などが持っている情報を統合し医師に伝えることで治療方針が変わる場面も多数ありました。また医師の指示が出ても、患者の何に役立つのか理解できなければ後回しになることもあります。そんな時に、私が声をかけ、なぜ指示が出たのかを伝えることで「指示の意味が理解できました。すぐに行います」と言ってもらうこともありました。

## 今後の課題

各診療科をローテーションで研修する中で、特定ケア看護師のできること、できないことについての医師・病棟看護師の理解の程度には差を認めました。3名の特定ケア看護師がいる診療科ではある程度理解されており活躍をしています。しかし、その他の診療科では末梢留置型中心静脈カテーテル（PICC）挿入の特定行為は理解されていても、その他の特定行為は理解されていないことが多いのが現状です。特定の手技を行うだけではなく臨床推論を行い、患者を医師と共に診る（看る）ということを広めていく必要があると考えています。また医師・看護師だけでなく、コメディカルとも情報を共有しながら、少しでも早く患者の異変を察知できるように特定ケア看護師がひとつのチームとして組織横断的に活動できる可能性を模索していきたいです。